

公立小学校における「英語活動」に関する意識調査
—千葉県沼南町(現柏市)の小学6年生・中学1, 2年生の保護者に対する
アンケート調査をととして—

A Survey of English Activities at Public Elementary Schools
with Parents of Sixth Graders of Elementary Schools and First and Second
Year Students of Junior High Schools in Shonan Town in Chiba Prefecture

北條 礼子 (上越教育大学)

Reiko HOJO (Joetsu University of Education)

松崎 邦守 (千葉県柏市立高柳中学校)

Kunimori MATSUZAKI (Takayanagi J.H.S., Chiba)

Abstract

Though introducing English into public elementary schools has been a recent nationwide issue, little research has been conducted on what parents of elementary and junior high school students who have or have not experienced English activities at elementary schools think about it. With the cooperation of the Educational Board of Shonan Town, this study was conducted in December of 2002 in Shonan Town (currently Kashiwa City since April, 2005) in Chiba Prefecture. 937 parents of sixth graders of elementary schools and parents of first and second graders of junior high schools in the town participated and answered the questionnaires in the survey. The results showed that the parents of children of different school levels showed the same tendencies in their attitudes toward English activities at elementary schools. Among all the results, they strongly agreed with letting their children experience English activities at elementary schools.

KEY WORDS

小学校英語活動 English Activities at Elementary School 意識調査 Survey
公立小学校 Public Elementary School 保護者 Parents of Students

1. 研究の背景

文部科学省が実施した小学校英語活動実施状況調査(平成15年度実績)によると、全国の公立小学校 22,526 校(平成15年5月1日現在)のうち、全体の 88.3 %にあたる 19,897 校が英語活動を実施している。平成 14(2002)年度の調査結果では英語活動の実施校が 53.1%であったことを考えても、平成 14(2002)年度4月から現学習指導要領が正式に実施されて以来、同活動に取り組む公立小学校が確実に増加しているといえよう。また、文部科学省は、既に「英語を教科として行う研究開発校」を平成12年度より指定し始め、小学

校における「英語科導入」に向けて大きく動き始めている。以上を踏まえると、「英会話活動」の実情や同活動をさらに推し進めて教科として英語教育を導入することに対する児童および保護者の意識を把握することが必要であると考えられる。ところで、公立小学校における「英会話活動」および「英語科の導入」に関して、一自治体の全児童・保護者を対象とした包括的な意識調査は今のところ極めて例が少ない状況である。

ところで、千葉県東葛飾郡沼南町は、2005年4月に柏市と合併したが、それまで千葉県北西部、首都圏30kmに位置する人口約4万6千人の町であった。沼南町当時、小学校が8校、中学校が4校あった。旧沼南町では「英会話活動」を「小学校英語活動」と呼び、平成12年4月より国際理解教育の一環として小学校英語活動を開始していた。その目的は、英語活動を実施することにより、異文化を理解し、共に生きていく資質や能力、コミュニケーションの基礎的な能力の育成を図ることであった。小学校段階では、外国語に触れたり、外国の生活・文化に慣れ親しむ体験的な学習が大切であると考え、年間10時間程度英語活動を実施していた。その他に町ぐるみで国際交流に取り組み、10年前から毎年夏休みに友好都市の関係にあるオーストラリアのキャンデン市に、青少年を派遣していた。なお、本調査の対象となった旧沼南町の対象者は、中学1年生から全員が小学校時代に英語活動を経験していたが、中学2年生は、小学校時代に小学校によって英語活動を経験していない生徒もいた。

2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、千葉県旧沼南町にある小学校6年生、中学校1、2年生の保護者の英語活動および「英語科の導入」に対する賛否の他に、英語活動に対する子どもの様子についての意識をそれぞれ明らかにすることである。本研究の第二の目的は、小学校時代に、英語活動を経験した生徒の保護者と未経験の生徒の保護者の意識の違いを明らかにすることである。

3. 研究の方法

3.1 調査実施時期：2002年12月

3.2 対象者：

①千葉県沼南町立小学校全8校の6年生保護者386名（有効回答数）

②千葉県沼南町立中学校全4校の1年生保護者357名（有効回答数）

③千葉県沼南町立中学校2校の2年生保護者194名（有効回答数）

3.3 測定具：小学6年生保護者については28項目、中学1、2年生保護者については34項目から成る5段階尺度形式のアンケート
アンケートは無記名式で行い、各学校ごとに回収した。

3.4 分析方法： χ^2 検定、分散分析

4. 研究の結果

4.1 小学6年生の保護者の結果(小学6年生保護者386名)

4.1.1 平均と標準偏差

まず、小学校6年生保護者386名の各項目に対する回答について、平均と標準偏差

(SD)を求めたが、その結果は表1に示すとおりである。

表1：小学校6年生保護者の各項目の平均と標準偏差(N=386)

	項 目 内 容	小6保護者	
		平均	SD
I	小学校で <u>英語や外国の文化などを体験的に学ぶこと</u>	4.69	0.63
II	小学校で英語を「 <u>教科として英語</u> 」を学ぶこと	4.21	1.02
III	お子さんに(とって)：		
1	英語は将来必要だと思う	4.56	0.65
2	いろいろな国の人々の考えを理解できるようになって欲しい	4.52	0.66
3	英語を学ぶことが日本の文化についても知ることにつながる	3.88	1.00
4	英語の「ラジオ講座」「テレビ番組」を見聞きする様子が見られる	2.17	1.21
5	英語の歌や会話をCD・テープで聞いたり、歌う様子が見られる	2.43	1.30
	自分の子どもが <u>小学校のとき体験した「英語活動」のこと</u> ：		
	お子さんが小学校で、		
1	「英語活動」を楽しんでいる様子が見られた	3.37	1.09
2	「英語活動」について家庭で話しをすることがあった	3.03	1.27
3	「英語活動」で学んだ英語表現を家庭で話すことがあった	2.90	1.33
4	「英語活動」のゲームの内容や様子を家庭で話すことがあった	2.87	1.35
5	外国人の先生のことを家庭で話すことがあった	3.17	1.31
6	英会話指導員の先生のことを家庭で話すことがあった	2.94	1.33
7	「英語活動」での外国の文化や習慣などを家庭で話すことがあった	2.58	1.23
8	「英語活動」での英語の歌を家庭で歌うことがあった	2.67	1.39
9	「英語活動」での英語のあいさつを家庭ですることがあった	2.97	1.34
10	「英語活動」での英単語が家庭での会話に出てくることがあった	2.82	1.32
11	「英語活動」をもっとやらせてみたいと思った	4.18	0.84
12	習った英語は中学校で役立つと思う	3.96	0.98
13	小学校での「英語活動」は <u>1年生から</u> 始めた方がよい	3.72	1.29
14	小学校での「英語活動」は <u>3年生から</u> 始めた方がよい	2.62	1.20
15	小学校での「英語活動」は <u>5年生から</u> 始めた方がよい	2.38	1.16
16	小学校で、 <u>アルファベットを読む</u> 学習をして欲しいと思う	4.10	1.06
17	小学校で、 <u>アルファベットを書く</u> 学習をして欲しいと思う	3.99	1.13
18	小学校で、 <u>簡単な英語の単語を読む</u> 学習をして欲しいと思う	3.96	1.08
19	小学校で、 <u>簡単な英語の単語を書く</u> 学習をして欲しいと思う	3.71	1.20
20	小学校で、 <u>簡単な英語の文を読む</u> 学習をして欲しいと思う	3.54	1.18
21	小学校で、 <u>簡単な英語の文を書く</u> 学習をして欲しいと思う	3.32	1.23

4.1.2 χ^2 検定結果(N=386)

次に、各項目に対する5段階形式の回答を3段階の肯定、中立、否定に再集計した上で χ^2 検定を行ったが、その結果は表2に示すとおりである。

表2：小学6年生保護者の各項目の集計結果と χ^2 検定結果(N=386)

項目	項目内容	平均	集計結果			χ^2 検定結果	
			肯定	中立	否定	χ^2 (2) p	多重比較:ランファンル * $p < .05$
I	小学校で英語や外国の文化などについて体験的に学ぶこと	4.69	356	27	3	604.73 **	肯定>中立>否定
II	小学校で「教科として英語」を学ぶこと	4.21	297	62	27	335.10 **	肯定>中立>否定
III	お子さんにとって: お子さんには英語は将来必要だと思う	4.56	360	24	2	625.76 **	肯定>中立>否定
	色々な国の人々の考えを理解	4.52	357	26	3	609.86 **	肯定>中立>否定
	英語が日本文化理解につながる	3.88	253	101	32	198.72 **	肯定>中立>否定
	英語のテレビ・ラジオ講座の視聴	2.17	56	91	239	146.67 **	否定>中立>肯定
	英語の歌、会話をCD等で聞く	2.43	90	89	207	71.53 **	否定>中立>肯定
IV	「英語活動」についてお子さんが						
1	楽しんでる様子が見られる	3.37	185	136	65	56.58 **	肯定>中立>否定
2	「家庭で話しをすることがある	3.03	160	99	127	14.49 **	肯定>中立
3	学んだ英語表現を家庭で話すことがある	2.90	159	77	150	31.43 **	肯定<否定>中立
4	行ったゲームの内容や様子を家庭で話すことがある	2.87	151	86	149	21.23 **	肯定<否定>中立
5	外国人の先生のことを家庭で話すことがある	3.17	190	86	110	46.09 **	肯定>中立>否定
6	英会話指導員の先生のことを家庭で話すことがある	2.94	162	84	140	25.13 **	肯定<否定>中立
7	学んだ外国文化や習慣などについて家庭で話すことがある	2.58	97	110	179	30.19 **	否定>中立>肯定
8	学んだ英語の歌を家庭で歌うことがある	2.67	121	88	177	31.46 **	否定>肯定>中立
9	学んだ英語のあいさつを家庭ですることがある	2.97	165	79	142	30.81 **	肯定<否定>中立
10	学んだ英語の単語が家庭での会話に出てくることがある	2.82	143	86	157	21.98 **	肯定<否定>中立
11	お子さんに「英語活動」をもっとやらせてみたい	4.18	312	62	12	401.55 **	肯定>中立>否定
12	習った英語は中学校で役立つと思う	3.96	266	91	29	234.81 **	肯定>中立>否定
13	小学校での「英語活動」は1年生から始めた方がよい	3.72	230	84	72	120.26 **	肯定>中立>否定
14	小学校での「英語活動」は3年生から始めた方がよい	2.62	87	133	166	24.47 **	肯定>中立>否定
15	小学校での「英語活動」は5年生から始めた方がよい	2.38	64	121	201	73.62 **	肯定>中立>否定
16	小学校で、アルファベットを讀む学習をして欲しいと思う	4.10	295	57	34	324.59 **	肯定>中立>否定
17	小学校で、アルファベットを書く学習をして欲しいと思う	3.99	282	60	44	275.08 **	肯定>中立>否定
18	小学校で簡単な英語の単語を讀む学習をして欲しいと思う	3.96	271	80	35	244.04 **	肯定>中立>否定
19	小学校で簡単な英語の文を書く学習をして欲しいと思う	3.71	231	96	59	127.40 **	肯定>中立>否定
20	小学校で簡単な英語の文を讀む学習をして欲しいと思う	3.54	201	118	67	71.10 **	肯定>中立>否定
21	小学校で簡単な英語の文を書く学習をして欲しいと思う	3.32	163	136	87	23.07 **	肯定<中立>否定

** $p < .01$

表2の結果をみると、全項目が1%レベルで有意な結果を示していたが、小学校6年生の保護者の回答をまとめると以下のとおりである。

- ①小学校で英語や外国文化を体験的に学ぶことや、教科として英語を学ぶことを大変肯定的に捉えている。

- ②自分の子どもにとって、英語は将来必要であり、外国人の考えを理解できるように
なっていて欲しいと強く希望している。
- ③どちらかという英語活動が自国文化理解につながると感じている。
- ④自分の子どもは、家庭でテレビ、ラジオや、CD、テープなどを通して英語に接触
する様子はほとんど見られない。
- ⑤家庭で子どもが「英語活動」を楽しんでいる様子がみられたり、話題になることは
ほとんどなかった。
- ⑥自分の子どもにもっと「英語活動」をさせたいと思っている。
- ⑦どちらかという、小学校の英語活動は中学校の英語に役立つだろうと考えている。

4.1.3 分散分析結果(N=386)

4.1.3.1 「英語活動」開始学年について

項目 13 から項目 15 までの3項目を通して、小学6年生の保護者 386 名が「英語活動」を開始するには、低学年、中学年、高学年のどの時期からがよいと考えているかについての回答を得た。分散分析の結果、1%レベルで有意な結果が得られ(F(2,712)=123.74)、さらにLSD法による多重比較の結果、中学1年生の保護者は、3年生、5年生で開始するより、1年生から英語活動を開始して欲しいと希望していることが明らかになった(1年>3年>5年; MSe=1.60, p<.05)。

4.1.3.2 文字指導について

項目 16 から項目 21 までの6項目で、小学6年生の保護者 386 名が英語の文字指導についてどのようなことを希望しているかについての回答を得た。分散分析の結果、1%レベルで有意な結果が得られ(F(5,1925)=92.16)、さらにLSD法による多重比較の結果、小学6年生の保護者は、図1に示す順序で文字の指導をして欲しいと欲しいと希望していることが明らかになった(MSe=0.38, p<.05)。ここから、アルファベットの読み書きと英単語を読めるようになってほしいという保護者の希望が読み取れる。

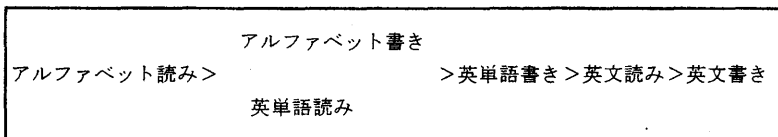


図1：小学6年生保護者 386 名の英語の文字指導への希望

4.2 中学1年生の保護者の結果(中学1年生保護者 357 名)

4.2.1 平均と標準偏差

次に、中学校1年生保護者 357 名の各項目に対する各回答について、平均と標準偏差(SD)を求めたが、その結果は表3に示すとおりである。

表3：中学1年生の平均と標準偏差(N=357)

項目	項目内容	中1保護者 (N=357)	
		平均	SD
I	小学校で <u>英語や外国の文化などについて体験的に学ぶこと</u>	4.55	0.74
II	小学校で英語を「 <u>教科として英語</u> 」を学ぶこと	4.08	1.18
III	お子さんに(とって):		
1	英語は将来必要だと思う	4.54	0.67
2	いろいろな国の人々の考えを理解できるようになって欲しい	4.46	0.68
3	英語を学ぶことが日本の文化についても知ることにつながる	3.73	1.00
4	英語の「ラジオ講座」「テレビ番組」を見聞きする様子が見られる	2.03	1.16
5	英語の歌や会話をCD・テープで聞いたり、歌う様子が見られる	2.31	1.24
	自分の子どもが <u>小学校のとき体験した「英語活動」のこと</u> ； お子さんが小学校のとき、		
1	「英語活動」を楽しんでいる様子が見られた	3.46	1.06
2	「英語活動」について家庭で話しをすることがあった	3.39	1.14
3	「英語活動」で学んだ英語表現を家庭で話すことがあった	3.05	1.27
4	「英語活動」のゲームの内容や様子を家庭で話すことがあった	3.07	1.23
5	外国人の先生のことを家庭で話すことがあった	3.58	1.21
6	英会話指導員の先生のことを家庭で話すことがあった	3.30	1.22
7	「英語活動」での外国の文化や習慣などを家庭で話すことがあった	2.92	1.17
8	「英語活動」での英語の歌を家庭で歌うことがあった	2.82	1.26
9	「英語活動」での英語のあいさつを家庭ですることがあった	3.09	1.27
10	「英語活動」での英単語が家庭での会話に出てくることがあった	2.96	1.27
11	「英語活動」をもっとやらせてみたいと思った	3.85	1.04
	小学校の「英語活動」で学習した：		
12	英語を中学校で役立てようとしている様子が見られる	2.68	1.04
13	英語が中学校で役立っている様子が見られる	2.69	1.04
14	ことは英語の発音の面で役立っている様子が見られる	2.62	1.09
15	英語を聞く面で役立っている様子が見られる	2.86	1.05
16	英語を話す面で役立っている様子が見られる	2.68	1.02
17	ことは英語の文法理解の面で役立っている様子が見られる	2.26	0.97
18	ことは英語を話す人々の生活や文化理解に役立つ様子が見られる	2.73	1.01
19	小学校での「英語活動」は <u>1年生</u> から始めた方がよい	3.51	1.50
20	小学校での「英語活動」は <u>3年生</u> から始めた方がよい	2.61	1.27
21	小学校での「英語活動」は <u>5年生</u> から始めた方がよい	2.46	1.19
22	小学校で、 <u>アルファベットを読む</u> 学習をして欲しいと思う	4.09	1.12
23	小学校で、 <u>アルファベットを書く</u> 学習をして欲しいと思う	4.05	1.13
24	小学校で、 <u>簡単な英語の単語を読む</u> 学習をして欲しいと思う	3.98	1.12
25	小学校で、 <u>簡単な英語の単語を書く</u> 学習をして欲しいと思う	3.78	1.21

26	小学校で、簡単な英語の文を読む学習をして欲しいと思う	3.59	1.20
27	小学校で、簡単な英語の文を書く学習をして欲しいと思う	3.40	1.26

4.2.2 χ^2 検定結果(N=357)

次に、各項目に対する5段階形式の回答を3段階の肯定、中立、否定に再集計した上で χ^2 検定を行ったが、その結果は表4に示すとおりである。

表4：中学1年生保護者の各項目の集計結果と χ^2 検定結果(N=357)

項目	項目内容	平均	集計結果			χ^2 検定結果	
			肯定	中立	否定	χ^2 (2) p	多重比較(ライソンの各組間、 $p < .05$)
I	小学校で英語や外国の文化などについて体系的に学ぶこと	4.55	314	39	4	484.45 **	肯定>中立>否定
II	小学校で(教科として英語)を学ぶこと	4.08	263	56	38	262.74 **	肯定>中立>否定
III	お子さんに(とって)						
1	英語は将来必要だと思う	4.54	330	24	3	563.04 **	肯定>中立>否定
2	色々な国の人々の考えを理解	4.46	322	34	1	524.01 **	肯定>中立>否定
3	英語が日本文化理解につながる	3.73	208	119	30	133.13 **	肯定>中立>否定
4	英語のテレビ・ラジオ講座の視聴	2.03	46	73	238	181.56 **	否定>中立>肯定
5	英語の歌、会話をCD等で聞く	2.31	77	70	210	104.59 **	否定>中立>肯定
IV	お子さんが小学校のとき「英語活動」について						
1	楽しんでいる様子が見られた	3.46	138	110	56	34.29 **	肯定≒中立>否定
2	家庭で話しをすることがあった	3.39	193	84	80	69.09 **	肯定≒中立>否定
3	学んだ英語表現を家庭で話すことがあった	3.05	156	83	118	22.40 **	肯定>否定>中立
4	行ったゲームの内容や様子を家庭で話すことがあった	3.07	151	95	111	13.98 **	肯定>中立>否定
5	外国人の先生のことを家庭で話すことがあった	3.58	235	49	73	172.03 **	肯定>中立>否定
6	英会話指導員の先生のことを家庭で話すことがあった	3.30	190	73	94	65.39 **	肯定>中立>否定
7	学んだ外国文化や習慣について家庭で話すことがあった	2.92	113	112	122	0.52 ns	肯定≒中立>否定
8	学んだ英語の歌を家庭で歌うことがあった	2.82	114	104	139	5.46 +	肯定≒中立>否定
9	学んだ英語のあいさつを家庭ですることがあった	3.09	160	79	118	27.58 **	肯定>否定>中立
10	学んだ英語の単語が家庭での会話に出ることがあった	2.96	145	77	135	22.66 **	肯定≒否定>中立
11	お子さんに「英語活動」をもっとやらせてみたいと思った	3.85	241	83	33	198.12 **	肯定>中立>否定
12	習った英語を中学校で役立たせようとしている様子がある	2.68	71	144	142	29.06 **	中立≒否定>肯定
13	習った英語が役立っている様子がみられる	2.69	70	148	139	30.61 **	中立≒否定>肯定
14	習った英語が英語の発音に役立っているようだ	2.62	67	136	154	35.45 **	中立≒否定>肯定
15	習った英語が英語を聞く面で役立っているようだ	2.86	100	140	117	6.77 *	中立>肯定>否定
16	習った英語が英語を話す面で役立っているようだ	2.68	71	151	135	30.12 **	中立≒否定>肯定
17	習った英語が英語の文法理解の面で役立っているようだ	2.26	23	136	198	132.32 **	否定>中立>肯定
18	英語を話す人々の生活・文化理解に役立っているようだ	2.73	73	155	129	29.51 **	中立≒否定>肯定
19	小学校での「英語活動」は1年生から始めた方がよい。	3.51	203	54	100	97.83 **	肯定>否定>中立
20	小学校での「英語活動」は3年生から始めた方がよい。	2.61	87	120	150	16.69 **	中立≒否定>肯定

21	小学校での「英語活動」は5年生から始めた方がよい。	2.46	58	138	161	49.13 **	中立>否定>肯定
22	小学校で、アルファベットを読む学習をして欲しいと思う	4.09	275	49	33	307.83 **	肯定>中立>否定
23	小学校で、アルファベットを書く学習をして欲しいと思う	4.05	265	58	34	271.11 **	肯定>中立>否定
24	小学校で簡単な英語の単語を読む学習をして欲しいと思う	3.98	263	57	37	263.06 **	肯定>中立>否定
25	小学校で簡単な英語の単語を書く学習をして欲しいと思う	3.78	221	87	49	137.21 **	肯定>中立>否定
26	小学校で簡単な英語の文を読む学習をして欲しいと思う	3.59	193	106	58	83.40 **	肯定>中立>否定
27	小学校で簡単な英語の文を書く学習をして欲しいと思う	3.40	160	120	77	28.96 **	肯定>中立>否定

+ .05<p<.10 * p<.05 ** p<.01

表4の結果から中学校1年生の保護者の回答をまとめると以下のとおりである。

- ①小学校で英語や外国文化を体験的に学ぶことは大変肯定的に捉え、教科として英語を学ぶことも肯定的に捉えている。
- ②自分の子どもに、英語は将来必要であり、また外国人の考えを理解できるようになって欲しいと希望している。
- ③自分の子どもは、家庭でテレビ、ラジオや、CD、テープなどを通して英語に接触する様子はほとんど見られない。
- ④「英語活動」が家庭で話題になることはあまりなかったが、どちらかという自分の子どもにもっと「英語活動」をさせたかった。
- ⑤小学校での「英語活動」は中学校の英語科において、一般的な面、発音、話すこと、英語圏の生活・文化理解には役に立っていないようだと感じている。
- ⑥特に、中学校の英語科における文法理解には役に立っていないと感じている。
- ⑦しかし、中学校英語科において、聞くことについては、多少違う印象を抱いており、役に立っているとも、役に立っていないともいえないと感じている。

4.2.3 分散分析結果(N=386)

4.2.3.1 「英語活動」開始学年について

項目13から項目15までの3項目で、中学1年生の保護者が「英語活動」を開始するには、低学年、中学年、高学年のどの時期からがよいと考えているかについての回答を得た。分散分析の結果、1%レベルで有意な結果が得られ($F(2,712)=58.70$)、さらにLSD法による多重比較の結果、中学1年生の保護者は、3年生、5年生より1年生から開始して欲しいと希望していることが明らかになった(1年>(3年=5年); $MSe=1.90, p<.05$)

4.2.3.2 文字指導について

項目16から項目21までの6項目で、中学1年生の保護者357名が英語の文字指導についてどのようなことを希望しているかについての回答を得た。

アルファベット読み
 アルファベット書き > 英単語書き > 英文読み > 英文書き
 英単語読み

図2：中学1年生保護者357名の英語の文字指導への希望

分散分析の結果、1%レベルで有意な結果が得られ($F(5,1780)=69.26$)、さらにLSD法による多重比較の結果、中学1年生の保護者は、図2に示す順序で文字の指導をし

て欲しいと希望していることが明らかになった(MSe=0.40, p<.05)。

4.3 中学2年生の保護者の結果(中学2年生保護者 194名)

4.3.1 平均と標準偏差

さらに、中学校2年生保護者 194名から回答を得た。しかし、本研究の対象者となった中学2年生は、小学校時代に英語活動を実施していなかった小学校に通っていた生徒がいた。そのため194名の中には、小学校で英語活動を経験した生徒の保護者151名と同活動を経験していない生徒の保護者43名が含まれていた。そこで、まず自分の子どもが小学校において英語活動を経験したかどうかに関わらない項目であるI部からIII部までの各回答について、平均と標準偏差(SD)を求めたが、その結果は表5に示すとおりである。

表5：中学2年生保護者の各項目の平均と標準偏差(N=194)

	項 目 内 容	全員 (N=194)		経験有 (N=151)		経験なし (N=43)	
		平均	SD	平均	SD	平均	SD
I	小学校で <u>英語や外国の文化などを体験的に学ぶこと</u>	4.62	0.68	4.58	0.63	4.63	0.70
II	小学校で英語を「 <u>教科として英語</u> 」を学ぶこと	4.13	1.10	4.30	1.04	4.08	1.12
III	お子さんに(とって):						
1	英語は将来必要だと思う	4.59	0.61	4.65	0.65	4.58	0.59
2	他の国の人々の考えを理解できるようになって欲しい	4.48	0.73	4.44	0.73	4.49	0.73
3	英語学習が日本の文化についても知ることにつながる	3.95	0.99	4.09	0.97	3.91	0.99
4	英語の「ラジオ講座」「テレビ番組」を視聴する様子がある	2.10	1.18	1.72	0.98	2.21	1.21
5	英語の歌や会話をCD・テープで聞いたり、歌う様子がある	2.42	1.26	1.95	1.19	2.56	1.25

4.3.2 分散分析結果(N=194)

次に、表5の結果を基に、子どもが小学校時代に英語活動を経験しているか経験していないかという違いにより、保護者の回答に対して分散分析を行った。その結果は表6に示すとおりである。

表6：中学2年生保護者の子どもの小学校英語活動経験の有無別による分散分析結果

	項 目 内 容	経験有 (N=151)		経験なし (N=43)		分散分析 結果
		平均	SD	平均	SD	
I	小学校で <u>英語や外国の文化などを体験的に学ぶこと</u>	4.58	0.63	4.63	0.70	0.16 ns
II	小学校で英語を「 <u>教科として英語</u> 」を学ぶこと	4.30	1.04	4.08	1.12	1.37 ns
III	お子さんに(とって):					
1	英語は将来必要だと思う	4.65	0.65	4.58	0.59	0.51 ns
2	他の国の人々の考えを理解できるようになって欲しい	4.44	0.73	4.49	0.73	0.15 ns
3	英語学習が日本の文化についても知ることにつながる	4.09	0.97	3.91	0.99	1.19 ns
4	英語の「ラジオ講座」「テレビ番組」を視聴する様子がある	1.72	0.98	2.21	1.21	5.77 *
5	英語の歌や会話をCD・テープで聞いたり、歌う様子がある	1.95	1.19	2.56	1.25	7.96 **

* p<.05 ** p<.01

表6の結果をみると、まず、自分の子どもが小学校で英語活動の経験があるかないか

にかかわらず、小学校で英語や外国の文化を体験的に学ぶことに対して、平均値が高く、かつ有意差がなかった($F(1,192)=0.16$)。ここから、中学2年生の保護者は、小学校での英語や外国の文化を学ぶことに強い希望があることがわかる。また、小学校における英語の教科化についても有意差がなく($F(1,192)=1.37$)、かなり賛意が強いことがうかがえる。次に自分のこどもにとって、将来英語が必要であるという項目には有意差がなく($F(1,192)=0.51$)、また他の国の人々の考えを理解できるようになって欲しいという項目においても有意差がなかった($F(1,192)=0.15$)。どちらの項目も平均値が4点台の半ばであり、どちらの項目内容についても中学2年生の保護者は希望が強いことが明らかになった。さらに英語学習が日本の文化を知ることにつながるという項目についても有意差がなく($F(1,192)=1.19$)、子どもの小学校英語活動の経験の有無に関わりなく、英語学習の自国文化理解に対する関連について肯定的に捉えていた。

しかし、項目4のラジオ、テレビを用いての英語学習について5%レベルで有意差があり($F(1,192)=5.77$)、項目5のCDやテープを用いて英語の歌や会話に親しんでいるかという項目において1%レベルで有意差がみられた($F(1,192)=7.96$)。しかし平均値が低い数値を示していることから判断して小学校での英語活動経験あるかないかによらず、中学2年生はラジオ、テレビを用いて英語を学習をしたり、CD・テープを用いて英語の歌を歌ったりすることはほとんどないものの、小学校英語活動の経験のない生徒の保護者の方が、自分の子どもが家庭で英語に接する様子が見られると感じていることがわかった。今回の調査からはその理由までうかがいしれないが、ここから少なくとも小学校における英語活動が必ずしも、家庭での英語学習に影響を与えていないものと推察される。

以上から、小学校英語活動の経験があるかないかにかかわらず、保護者は英語の必要性を認め、小学校英語活動にかなり強い期待を抱いていると考えられる。

4.3.3 中学校2年生の保護者の χ^2 検定結果(N=151)

次に、子どもが小学校時代に英語活動を経験している保護者についてのみ、IV部の各項目に対する5段階形式の回答を3段階の肯定、中立、否定に再集計した上で χ^2 検定を行ったが、その結果は表7に示すとおりである。

表7の結果から、小学校時代に英語活動を経験した中学校2年生の保護者の回答をまとめると以下のとおりである。

- ①「英語活動」が家庭で話題になることはあまりなかったが、どちらかというとな英語活動を子どもが楽しんでいる様子が見られる傾向があった。
- ②どちらかというとな自分の子どもにもっと「英語活動」をさせたかった。
- ③小学校での「英語活動」は中学校の英語科において、全般的な面、発音、話すこと、英語圏の生活・文化理解には役に立っていないようだと感じている。
- ⑥特に、中学校の英語科における文法理解には役に立っていないと感ている。
- ⑦中学校英語科において、聞くことについては、中学1年生の保護者と似た傾向を示し、役に立っているとも、役に立っていないともいえないという、英語の他の面とは多少違う印象を抱いている。

表 7 : 中学 2 年生保護者の各項目の集計結果と χ^2 検定結果(N = 151)

項目	項目内容	平均	集計結果			χ^2 検定結果	
			肯定	中立	否定	χ^2 (2) p	多重比較 (ランソウ法) $p < .05$
IV	お子さんが小学校のとき「英語活動」について						
1	楽しんでいる様子が見られた	3.50	79	48	24	30.21 **	肯定 > 中立 > 否定
2	家庭で話しをすることがあった	3.50	89	35	27	45.19 **	肯定 > 中立 > 否定
3	学んだ英語表現を家庭で話すことがあった	2.99	58	41	52	2.95 ns	肯定 > 中立 > 否定
4	行ったゲームの内容や様子を家庭で話すことがあった	3.11	67	39	45	8.64 **	肯定 > 中立
5	外国人の先生のことを家庭で話すことがあった	3.57	98	27	26	67.72 **	肯定 > 中立 > 否定
6	英会話指導員の先生のことを家庭で話すことがあった	3.34	83	32	36	31.96 **	肯定 > 中立 > 否定
7	学んだ外国文化や習慣について家庭で話すことがあった	2.91	51	48	24	10.68 **	肯定 > 中立 > 否定
8	学んだ英語の歌を家庭で歌うことがあった	3.00	63	38	50	6.21 *	肯定 > 中立 > 否定
9	学んだ英語のあいさつを家庭ですることがあった	3.01	62	40	49	4.86 +	肯定 > 中立 > 否定
10	学んだ英語の単語が家庭での会話に出てくることがあった	3.03	61	44	46	3.43 ns	肯定 > 否定 > 中立
11	お子さんに「英語活動」をもっとやらせたいと思った	4.01	109	32	10	107.38 **	肯定 > 中立 > 否定
12	習った英語を中学校で役立たせようとしている様子がある	2.80	36	63	53	7.36 *	中立 > 肯定
13	習った英語が役立っている様子が見られる	2.77	34	63	54	8.75 *	中立 > 肯定
14	習った英語が英語の発音に役立っているようだ	2.78	34	66	51	10.19 **	中立 > 肯定
15	習った英語が英語を聞く面で役立っているようだ	2.94	44	67	40	8.44 *	中立 > 否定
16	習った英語が英語を話す面で役立っているようだ	2.78	30	73	48	18.53 **	中立 > 肯定 > 否定
17	習った英語が英語の文法理解の面で役立っているようだ	2.39	14	65	72	39.83 **	否定 > 中立 > 肯定
18	英語を話す人々の生活・文化理解に役立っているようだ	2.89	36	75	40	18.29 **	中立 > 肯定 > 否定
19	小学校での「英語活動」は1年生から始めた方がよい。	3.54	84	31	36	34.03 **	肯定 > 中立 > 否定
20	小学校での「英語活動」は3年生から始めた方がよい。	2.77	43	54	54	1.60 ns	肯定 > 中立 > 否定
21	小学校での「英語活動」は5年生から始めた方がよい。	2.48	33	46	72	15.67 **	否定 > 肯定 > 中立
22	小学校で、アルファベットを讀む学習をして欲しいと思う	4.14	120	19	12	145.13 **	肯定 > 中立 > 否定
23	小学校で、アルファベットを書く学習をして欲しいと思う	4.06	112	25	14	114.53 **	肯定 > 中立 > 否定
24	小学校で簡単な英語の単語を讀む学習をして欲しいと思う	4.03	109	32	10	107.38 **	肯定 > 中立 > 否定
25	小学校で簡単な英語の単語を書く学習をして欲しいと思う	3.81	92	40	19	56.12 **	肯定 > 中立 > 否定
26	小学校で簡単な英語の文を讀む学習をして欲しいと思う	3.74	87	48	16	50.24 **	肯定 > 中立 > 否定
27	小学校で簡単な英語の文を書く学習をして欲しいと思う	3.49	68	57	26	18.85 **	肯定 > 中立 > 否定

+ .05 < p < .10 * p < .05 ** p < .01

4.3.3 分散分析結果(N=386)

4.3.3.1 「英語活動」開始学年について

項目13から項目15までの3項目で、中学2年生の保護者151名が「英語活動」を開始するには、低学年、中学年、高学年のどの時期からがよいと考えているかについての回答を得た。分散分析の結果、1%レベルで有意な結果が得られ(F(2,300)=24.17)、さらにLSD法による多重比較の結果、中学2年生の保護者は、3年生、5年生より1年生から

開始して欲しいと希望していることが明らかになった(1年>(3年=5年); MSe=1.85, p<.05)

4.3.3.2 文字指導について

項目16から項目21までの6項目で、中学2年生の保護者151名が英語の文字指導についてどのようなことを希望しているかについての回答を得た。分散分析の結果、1%レベルで有意な結果が得られ(F(5,750)=30.16)、さらにLSD法による多重比較の結果、中学2年生の保護者は、図3に示す順序で文字の指導をして欲しいと欲しいと希望していることが明らかになった(MSe=0.30, p<.05)。

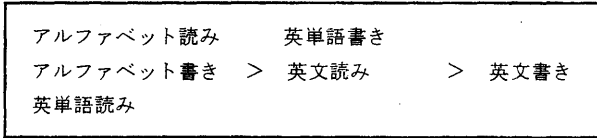


図3：中学2年生保護者151名の英語の文字指導への希望

5 考察

以上の調査結果から、以下のことが明らかになった。

小学6年生、中学1年生、2年生の保護者に小学校英語活動について、かなり共通の意識を抱いていること。主な共通点は以下のとおりである。

- ①小学校で英語や外国文化を体験的に学ぶことや、小学校で教科として英語を学ぶことを肯定的に捉えていた。
- ②自分の子どもにとって、英語は将来必要であり、外国人の考えを理解できるようになって欲しいという希望が強かった。
- ③小学校英語活動は自国文化理解につながるであろうと考える傾向があった。
- ④家庭で、子どもがテレビ、ラジオ、CD、テープを用いて英語に接触する様子はほとんどみられなかった。
- ⑤家庭で小学校英語活動が話題になることはほとんどなかった。
- ⑥小学校英語活動を子どもにもっとさせたかったという希望が多かった。
- ⑦小学校英語活動は小学1年生から開始するのがいいと考えていた。
- ⑧英語の文字指導についても、特にアルファベットの読み書きや簡単な英単語読みについては希望が強かった。

以上の結果は、文部科学省が平成16年6月に実施した「小学校の英語教育に関する意識調査」に共通していると考えられる。この調査は小学4、6年児童、保護者、教員を対象としているが、そのうち9,598名の保護者から回答を得ている。

この調査で小学校英語活動に賛同する保護者は91.1%であったが、旧沼南町の保護者は92.2%であった。また小学校の英語教育の必修化については文部科学省の調査では賛成が70.7%であり、旧沼南町では76.9%であった。文部科学省による調査では小学校英語活動の目標についても回答を求めているが、保護者は英語に対する外国に関する視野を広げることについて88.4%が賛意を示したが、旧沼南町の児童保護者は97.0%が賛同

していた。

また、この調査結果には「英語活動によって生じた子どもたちの変化」(複数回答・上位5項目)が含まれており、その中には、「今のところあまり変化は見られない」と回答した保護者が38.1%であり、「英語に関する話をよくするようになった」と回答した保護者が17.9%であったという報告がある。項目内容と集計・分析方法が異なるため、直接比較することは困難であるが、旧沼南町での調査結果とほぼ同様の傾向がみられるといえよう。つまり、小学校英語活動による子どもへの影響はこれまでのところ大きくないという状況である。

次に、本研究では小学校児童の保護者と中学1、2年生の保護者に対して異なる質問を行った。前者に対して小学校英語活動が中学校の英語に役立つと思うかどうかについて回答を求め、後者については小学校英語活動が中学校の英語科においてどのような面で訳になっていると思うかについて回答を求めた。その結果は以下のとおりである。

- ①小学6年生の保護者は、どちらかという小学校の英語活動が中学校の英語に役立つだろうと考えていた。
- ②中学2、3年生の保護者は小学校での英語活動が中学校の英語科において、全般的な面、発音、話すこと、英語圏の生活・文化理解には役に立っていないようだと感じていた。さらに、特に文法理解には役に立っていないと感じていた。
- ③しかし、中学校英語科において、聞くことについては、多少違う印象を抱いており役に立っているとも、役に立っていないともいえないと感じている。

さらに、本研究における中学2年生が小学生であった時期には、小学校によって英語活動を実施していないところもあったため、子どもが小学校で英語活動を経験している保護者と経験していない保護者により小学校英語活動や英語を学習することに対して意識が違うのかどうかについても検討した。その結果、子どもの小学校英語活動経験の有無にかかわらず、保護者は英語の必要性を認め、子どもに英語を学んで欲しいと強く期待していることが明らかになった。

以上の結果から、まず子どもに英語を学んで身につけて欲しいとする保護者の期待が強いことがうかがえる。この期待とは別に、小学校における英語活動が中学校英語科においてあまり役に立っていないようだという感想も別の面であらざるものと考えられる。旧沼南町では、本研究の対象となっている中学1年生から全部の小学校で年間10時間の英語活動を実施しており、全国的にみても町ぐるみで小学校英語活動に熱心に取り組んでいる地方自治体であった。しかし、年間10時間というのは、月1回程度の活動と言うことになるが、児童の英語への関心、意欲を高めるには有効であり、旧沼南町の英語活動の目的に合致していると判断できる。しかし、この時数では中学校の英語科に大きな影響があるとは考えられないことから、本研究の結果は大変納得のいくものであると考えられる。

旧沼南町を対象とした本調査の結果ばかりでなく、本研究平成16年6月に実施された文部科学省による調査結果からも、保護者による小学校英語活動に対する強い期待を感じ取ることができる。現在、小学校英語活動は、全国的にみてその取り組みに大変温度差がある状況であるといえよう。保護者の見解について、現在条件が同じではないので、全国的に同活動が同程度実施されるようになった時期に保護者の反応を改めて検討していくことも重要であろう。